



横浜市立一本松小学校

11月号

# 学校だより

令和3年10月29日  
横浜市立一本松小学校  
校長 高桑 透

## 「宇宙飛行士に必要な力とは」

校長 高桑 透

緊急事態宣言が解除され、時短営業の制限もなくなり、社会全体が少しずつ活気を取り戻してきました。今後起こるかもしれない感染症の再拡大に気を付けながらも、新しい社会に変換していくための過渡期を迎えているようです。

学校行事も、先日実施した5年生の校外学習や、2年生のまち探検など、できることから少しずつですが、以前の学校で行われてきたことを再開しています。明日の運動会に向けても、子どもたちは演技と徒競走の練習に真剣に取り組んできました。一人ひとりの出番はとても少ないですが、子どもたちの輝く姿をぜひご覧いただきたいと思います。

先日研修で宇宙飛行士の山崎直子さんの講演を聴く機会がありました。山崎直子さんは、2010年4月、スペースシャトル・ディスカバリー号で宇宙へ行き、国際宇宙ステーションの組立補給ミッションを行った方です。現在は宇宙教育アドバイザーとして活躍されています。宇宙飛行士になりたいという夢を、様々な困難を乗り越え、努力し続けて叶えることのできた山崎さんのお話は、とても素敵で魅力的であり、人間力の溢れたものでした。

その中で、日本で13年ぶりに宇宙飛行士の募集が行われるということについてお話があり、宇宙飛行士に求められている力について、教えていただきました。

まず、「**極限状態での判断力・行動力**」です。宇宙飛行士の訓練の中で、特に重要視されているのは、あらゆるトラブルへの対応訓練だそうです。物が壊れる、機械が正常に動作しない、などの想定されるものだけではなく、さらに深刻なもの、解決できなければ自分の命にかかわるような極限状態で、冷静に、短時間で判断し行動することができるように訓練を繰り返すそうです。その繰り返しにより、「**極限状態での判断力・行動力**」をさらに磨いていくそうです。

次に「**協調性・リーダーシップ**」です。トラブルへの対応訓練において、一緒に搭乗するクルーとの話し合いにより、方針を決め解決していきます。多国籍チームとなる仲間と、お互いの意見を尊重しながら対応しなければなりません。相手の意見に合わせることはもちろん、場合によっては自分がリーダーとなってチームをまとめていく必要もあります。宇宙空間という特殊な閉鎖的な場所で、長時間一緒に過ごすためには、大きなミッションを達成するためには、「**協調性・リーダーシップ**」はなくてはならない力です。

この2つの力は、宇宙飛行士だけに必要なものではなく、誰にとっても大切なものであると思います。私たちは、日々いろいろな場面で判断し、行動しなければなりません。仕事でもプライベートでも人と関わる際には、相手の考えを尊重したり、自分の考えを伝えてリードしたりする必要もあります。

誰にとっても大切なこの2つの力をつけることができるように、学校生活の中で、「**判断力・行動力**」や、「**協調性・リーダーシップ**」を育てることに取り組んでいきたいと思います。そして、この2つの力が大きく育ち、将来素敵で大人になってくれることを願っています。一本松小の子どもたちの中から、宇宙飛行士になる子がいたらと、そんな夢が膨らんでしまいます。